

科目責任者 川北 晃司 (倫理学研究室)

■ 教育目的

医療を担う上で期待される倫理観を知り、倫理的義務を大切にできる医療者としての専門職意識 (プロフェッショナリズム) を培う。現代における医療倫理の中心には、患者と医療者間の良好な意思疎通と情報提供がある。現代の医療者がめざすべき専門職倫理を明確化、意識化することにより、薬剤師を含む医療者は、尊敬すべき地位を保ち続け、さらにいっそう高められる。医療倫理とは、患者にも医療者にも必須で、患者と医療者の双方を励ます価値観であることを理解する。

■ 学習到達目標

1. 医療倫理の社会的歴史的背景・目的・方法について列挙できる (知識)
2. 医療倫理とは具体的にどのような指針であるかを説明できる (知識)
3. 医療倫理に対するコンプライアンスの態度・習慣を評価、意図できる (知識、技能、態度)

■ 準備学習 (予習・復習)

予習：教科書該当ページを読み、日頃から医療倫理関連ニュースに注目する

復習：授業ノートおよび配布物を読み返し、疑問点を整理して次週質問できるようにする

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	導入	「責任の拡散」(見義不為) 体験談等	A (1) -1-5
2	人間の尊厳 (教科書 p.3~12)	「尊厳」とは何か、尊厳の根拠、尊厳への配慮	A (1) -1-2~4
3	医療の目的 (教科書 p.13~17)	病気とは、病気の予防、治療、延命、QOL、プロフェッションとは	A (1) -2-1
4	先端医療と生命倫理 (教科書 p.19~30)	先端医療の全体像と倫理的問題、歴史の中でみた 生命倫理、生命科学・医学と社会との関係	A (1) -3-1
5	倫理学理論の諸類型	幸福主義、人格主義、徳理論など	A (1) -3-1
6	社会からのニーズと期待 (教科書 p.33~42)	薬剤師綱領、薬剤師倫理規定、チーム医療、医薬分業	A (2) -1-1~3
7	医療行為にかかわる心構え (教科書 p.43~52)	ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、患者の基本的権利と自己決定権	A (2) -2-1~5
8	医療現場での研修医の奮闘例	ビデオ教材「研修医 初めて患者と向かい合う若者の記録」(NHK 総合, 2005 年)	A (3) -3-1~4
9	研究活動に求められる心構え (教科書 p.53~59)	科学的研究手法の特徴、利益相反への対処	A (2) -3-1~2
10	医薬品の創製と供給にかかわる心構え (教科書 p.61~69)	医薬品の研究・開発において必要とされる配慮・態度、医薬品使用事故回避の重要性	A (2) -4-1~2
11	患者の気持ちへの配慮 (教科書 p.103~117)	患者の心理、患者心理を踏まえた服薬指導、患者 家族の心理、患者家族への配慮	A (3) -3-1~4
12	チーム医療と薬剤師の役割 (教科書 p.119~131)	ビデオ教材「東京女子医科大学病院-医療の現場で何が起きているか」(NHK 総合, 2003 年)	A (2) -4-1~2 A (3) -4-1
13	薬害の実例 (医薬品の光と影)	薬害の定義・歴史等 ビデオ教材「揺れる抗ガン剤イレッサ」(NHK 総合,2005 年)	B (1) -4-3
14	薬害の克服	薬害の要因・防止策	B (1) -4-3
15	まとめ	全体のまとめと補足	

■ 授業分担者

No. 1 ~ 15 川北 晃司

■ 成績評価方法

期末試験 (70%) と授業中のレポート (30%) での評価を原則とするが、受講態度も考慮することがある

■ 教科書

『ヒューマニズム薬学入門』 笠原 忠・越前 宏俊 共編 (培風館、2010)

■ 参考書

講義時に紹介する